

ヴイストーン株式会社



「ロボカップ世界大会」で5連覇

平成20年、世界規模で開催される自律二足歩行型ロボットのサッカー大会「ロボカップ」で、5連覇の偉業を果たした「チーム大阪」。大阪の産官学が共同で作るこのチームで、開発の中心的役割を果たしているのがヴイストーンだ。

平成12年、大和信夫社長が設立しスタートした同社。当初は国立大学の工学博士が発明した、360度の視界を持つ「全方位センサ」の商品化を行っていた。「当時でもロボットを作る技術は持っていたが、商品に

するという発想がなかった」と話す大和社長。そこに、「ロボカップ」の話が舞い込んだのだ。

「チーム大阪」の一員として初出場した平成16年の世界大会でいきなり優勝すると、その数か月後にはロボットの商品化に着手。販売開始後は、本人たちも驚くほどの反響を呼び、予想以上の売上を記録した。当時すでに、ロボット工学者と長年にわたる研究を続けていた上に、民間の通信研究所からロボットの開発委託を受けていた同社。「長い歳月をかけた研究成果をすでに蓄えていた」ことが、まだ世間にロボットなど無かった時代において大きな強みとなったのだ。

「ロボカップで世界一になったとい

う誇りを持って仕事ができることは大きなメリット」と語る大和社長。「どんな企画や商品でも、それが何らかの形で世界一になることが肝心」という。「日々、技術革新が進むこの業界でも、世界一の製品であればすぐに量産に移せる上に、技術者はほかでは決して得ることのできない経験を得られる」からだ。「ものづくりでは、たとえ真似をするときでも、もとの製品とは絶対的に違う『何か』を付け加えることを忘れてはいけない」——この精神を貫き、「世界一」を作り上げた。

ロボット製造は垂直統合で

ヴイストーンにはもう一つの絶対的な強みがある。ロボットの製造を「垂直統合」しているという点だ。「どんなに新しい技術でも、最後にロボットに組み込んで機能させなくては意味がない。要素部品だけでは、それをどこに使い、どうカスタマイズすればいいのかわからない」のだ。新しい技術や部品を社内ですべて実証実験できる強みは大きい。

また同社は、ロボットショー等のイベントや、年間で数百回にも上る「ロボット工作教室」を実施。直接、

生の声や反応にふれることで、社内ですべてに専念しては知り得ない、新鮮な知識と情報を得ている。社会の中でロボットが与える「感動」を目的にすることが、技術の向上にもつながっているのだ。

今後、

主な事業内容

ロボット関連製品の開発・製造・販売、ロボット関連イベントの企画・実施、全方位センサ関連製品の開発・製造・販売、センサネットワーク関連製品の開発・製造・販売等



大和信夫さん
代表取締役社長

「感動を追い求める」 ロボット開発の雄



ヴイストーン株式会社

Company
Profile

住所 / 〒554-0024
大阪府大阪市此花区島屋4-4-11
設立 / 平成12年8月
資本金 / 1億5,395万円
従業員 / 14名 (平成21年1月現在)
TEL / 06-6467-6601
FAX / 06-6467-6602



<http://www.vstone.co.jp/>